

多文化キッズサロン事業(東京都補助金事業)について

1 東京都補助金の概要

令和 5 年度からの東京都新規事業。東京都こども未来アクションの一部事業。

日本語を母語としない子供が安心して立ち寄ることができる地域の居場所として「多文化キッズサロン」を都内に設置し、日本語学習や教科学習、悩みや困りごとに寄り添う相談、地域の人や同じ境遇の仲間との交流を実現することで、多くの人とつながりながら、自分らしく暮らしていけるよう地域で一体的な支援を行うことを目的とする。「学習」「相談」「交流」の 3 つの機能を保有するものが補助対象となる。

補助率は整備費が 100%、運営費は 50%となっている(上限あり)。

八王子市では令和5年 10 月より補助金を受けて実施している。前年度は目黒区と八王子市のみであったが、今年度は新たに2市(福生市・西東京市)から補助金申請があったとのこと。

2 八王子市における実施状況(令和6年度)

八王子国際協会では、従前より実施していた学習支援教室を拡充し、以下の事業を「多文化キッズサロン」として実施している。

(1)学習機能

- ・ 八王子駅前教室(月曜日)と北野駅前教室(水曜日)にて学習会を実施
- ・ 子供に合わせた個別対応
- ・ 生活に必要な日本語の学習支援
- ・ 長期休暇時の学習支援教室
- ・ 高校受験対策の支援
- ・ 学校の授業の復習や、宿題のサポート
- ・ 就学前サポート

(2)相談機能

- ・ 福祉や心理の専門家による相談を実施
- ・ 進路・進学ガイダンスを実施

(3)交流機能

- ・ 子供向けワークショップを開催し、地域との交流を支援

【令和6年度の在籍者数等(令和6年 12 月時点)】

在籍者数 30 名(八王子駅前教室 16 名、北野教室 14 名)

国籍 7か国 小学生 17 名、中学生 13 名

3 多文化キッズサロン事業の拡充について

市域全体で外国人住民が増えている状況であり、それに伴い、日本語を母語としない子どもたちも増えてきている。現在、八王子駅前及び北野駅前で実施しているが、市域が広いため、特に学習支援事業は、他の地域でも実施する必要がある。

そのような中、拓殖大学外国語学部が実施主体となり、授業の一環として、担当教授(2名)と学生(留学生含む)により、東浅川保健福祉センターにて多文化キッズサロン高尾駅前教室を開催できるよう調整中。

令和7年4月中旬頃からの実施に向けて、今後周知等を行う予定。

4 課題

- ・ 学校や保護者との連携が必要となるような、対応が難しいケースがある。
- ・ 東部地区など外国籍児童が多い地域に更にキッズサロンを設置しようとすると、新たな担い手(支援者個人や組織を運営できる人)の確保が必要となる。